

# 平成 27 年度 蘇遙会情報誌

熊本大学工学部土木環境系教室

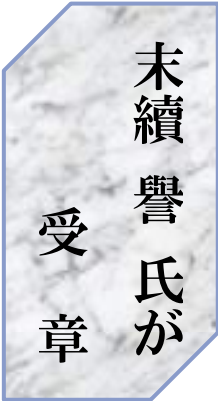
Soyoukai@kumamoto-u.ac.jp

http://www.web-dousoukai.com/soyoukai/



発行日 2016年1月1日

発行 熊本大学蘇遙会事務局



末續 譽 氏(すえつぐ ほまれ・熊本工業専門学校土木工学科 昭和 20 年卒)が、平成 27 年秋の叙勲で瑞宝双光章を受章(平成 27 年 11 月 3 日付)されました。

瑞宝章は公務や公共の業務に長年従事した功労者を対象としており、末續氏は日本国有鉄道大阪工務局岡山工事事務所次長として鉄道業務についての功労を章されました。

## 蘇遙会会則を

### 改正

熊本大学土木系学科は、明治 30 年の第五高等学校工学校創設以来、百十余年の伝統を誇り、平成 26 年度までにのべ 6600 人以上の卒・修了生を輩出しています。その中で、蘇遙会は昭和 57 年に土木系学生会として設立されました。その後、平成 14 年

## 特集 同窓会システムの運用開始

平成 27 年度より、同窓会システムの本格導入が決定しました。インターネットでの情報の修正、閲覧ができます。携帯、スマートフォンからの閲覧にも対応しています。

詳しい内容は本誌 4 面をご覧ください。

に同窓会となり、現在も在學生、現教職員、ならびに出身者による相互の親睦を図ることを目的とし、名簿作成事業による益金を主たる資金として、学生会による自主研修やレクレーション活動、出身者による特別講義など、特に学生支援事業を活発に実施しております。

これらの事業による学生への教育効果はもとより、教室の活性化、ならびに官庁や企業からの就職活動に関する情報提供機会の増加など、良好な状況が育ってきたと言えます。また、蘇遙会はこれらの事業を通じて、全国各地に在住する出身者とそのグループとを繋ぐハブ組織としての機能も有しています。しかしながら、近年において、時代と共に社会様様は著しく変

わり、ひとつの大学、ひとつの教室からの同じ出身者であることを根本とする帰属意識が希薄となったり、普段の交流機会も減少したりしています。その結果、蘇遙会の目的や主旨については出身者、特に比較的若年層には浸透せず、それに伴って会費収入は著しい減少傾向にあります。

そこで、蘇遙会運営委員会においては、蘇遙会の学生への支援拠点、ならびに工業会各支部・各部会の土木系出身者のハブ拠点としての 2 つの重要な存在意義を維持していくため、本会事業の適切な見直しを行って、会計に見合った魅力ある事業を執行すべきと考え、会則の改正の必要性を検討しました。以下は主な改正目的と内容です。

## 蘇遙会創立主旨の再確認

(第2条・目的、第3条・会員、

第4条・役員、第5条・運営)

蘇遙会は工業会会員土木系出身者の同窓会組織であり教室を後援する組織であることを再確認し、会員、役員が会員及び教室の発展に資するという目的に向かつて協力していきます。

## 会計のひっ迫解消

(第8条・会計)

10月に行われた第2回運営委員会において、経費削減の1つとして、各年度に発行していた名簿を廃止します。また、これまで正会員および特別会員の会費を5000円(2年度分)としていましたが、平成28年度より3000円(1年度分)に変更し、毎年集金することが決定しました。

## 会員にとっての魅力向上

(第10条・事業)

今後は、会員にとっての蘇遙会の魅力を「教室とのつながり」と考え、蘇遙会のホームページの充実を図り、メールマガジン

などを有効利用していきます。

①名簿情報の維持管理、②福井育英奨学金の募金の支援、③会員のための見学会や講演会などの開催、④各地区での会員相互の交流会、懇談会の支援などを中心に、会員にとって魅力のある事業を行うように努めます。

また、これまでは名簿作成事業による益金を大きな収入としてきましたが、同窓会システムの導入に伴い名簿誌の発行を中止し、情報誌の体裁を変更するとともに、内容をより充実したものとします。さらに、これを年2回の発行として全会員に配布します。これにより、より多くの会員の方々に大学・教室との接点を提供いたします。

## 学生部の設置

(第6条・学生部)

蘇遙会では学部3年生を中心に学生が活発に活動しており、「出前講座」などの企画をはじめ、先輩・後輩の縦の繋がりを支援するとともに、各種交流会で各学年の横の交流を深めています。これを学生会員組織として確立するため規則を設置しま

す。また、工業会学生支部・工学部学生会との連関を整理し、学生部の自主積極な活動を支援していきます。

## 会則各条文の見直し

これらに沿って、平成27年10月9日より会則を一部改正し、施行することを蘇遙会運営委員会において審議し、決定しました。

会則の内容についてはホームページ内の「運営委員会」より「蘇遙会会則」を参照願います。

# 会員活動報告

## 蘇遙会熊本支部 新人歓迎会報告

開催日 平成27年5月30日(土)  
場所 交通センターホテル  
参加者 39名(新社会人7名)

今年は、若手の企画、段取りによる新社会人の歓迎会を行います。大学的小林先生(工業会



熊本支部土木部会副会長)のご協力のもと、色々な職場の皆様との協力を得て、少人数ではありますが、新人歓迎会を交通センターホテル(平成27年6月末で閉店)で行うことができました。

歓迎会は、福岡、佐賀、大分等県外からも参加して頂きました。参加者の8割が平成卒業となった今回の集まりは、今までに無いほど、会場のいたるところで若手の盛り上がり溢れかえっていました。新社会人の抱負は、しっかりと自分の考えを表現できており頼もしく感じ、諸先輩方からの激励の言葉には、土木の先輩の優しさを改めて感じました。歓迎会は、終始賑や

かで、あつという間の 2 時間でした。

今後、この新人歓迎会については、若手の段取りによる開催及び、若手が参加しやすく活気の溢れる環境の整備を目標としております。歓迎会を通じ、参加して頂いた若手が、今後の蘇遙会を盛り上げていく原動力になってくれればと期待しています。

今後とも、蘇遙会の活動への皆様の参加・ご協力をよろしくお願いたします。(新人歓迎会 幹事一同)

**熊大紅葉会**  
『久しぶりに  
飲んじやうぞ会』  
大盛会の報告

平成 27 年 5 月 29 日に、広島・熊大紅葉会が開催されました。以下、報告と写真を掲載します。

今回は 13 名の参加に留まりましたが、一次会、二次会共に大いに盛り上がりました。

参加者年齢は 30 以上離れていると思うのですが、同窓に年齢は関係ないことが証明されるような楽しい会でした。

新しく参加された方、いかが

でしたでしょうか？これに懲りてはいけませんよ！！そしてこの会はまだまだ続きます。たぶん突然案内が届きます(暑氣払いか、残暑見舞いかな?)!! 残念ながら今回参加できなかった方、次回はぜひ参加してください。よろしくお願いたします。それでは再会を楽しみに!!



広島紅葉会のメンバー

**ご挨拶**

蘇遙会会長 北園 芳人

蘇遙会会員の皆様にはいかがお過ごしですか。

蘇遙会の活動としては、蘇遙会の会員の活動を報告する「蘇遙会情報誌」を毎年、「蘇遙会会

員名簿」は隔年で発行しています。さらに学生支援・卒業生支援および卒業生と教室・学生との交流等を行ってききました。

蘇遙会の運営にあたっては会費の収入が唯一の資金になっていきますが、平成 27 年度の現状では非常に厳しいものとなりました。会費収入が延びず、このまま 27 年度の蘇遙会情報誌を発行すると 28 年度への繰り越しがほとんどなくなり、28 年度の会員名簿の発行が不可能な状態になることが判明しました。そこで、10 月に緊急の運営委員会を開催し、蘇遙会の今後の在り方について検討いたしました。

「蘇遙会情報誌」、「蘇遙会会員名簿」の発行についても運営委員会で検討し、後述の「同窓会システム特集」にありますように変更が決定しました。「学生支援」については新入生からの学生会費収入で毎年 30 万円程度支援し、学生会の活動を支援しています。活動内容で卒業生との関連では平成 24 年度から学生会と東京支部が連携して、卒業生による出前講義を開催し、学生の進路選択に大いに役立っています。今後も多くの卒業生に「出前講義」に参加していただ

き、学生に刺激を与えて欲しいと願っています。

各支部の活動については、東京、福岡、北九州では若い卒業生の参加が増えており、今後一層の活性化が望まれます。熊本支部ではこのところ低迷していましたが、6 月に若手の卒業生が中心になって、新人歓迎会を開催し、盛り上がりました。今後の活性化に期待したいと思えます。その時の様子は蘇遙会のホームページに掲載されています。ご覧ください。

蘇遙会の運営にはまだまだ課題があります。卒業生の皆様のご意見を伺いながら「蘇遙会」が同窓会としての役割を果たしていけるように努力して行きたいと考えています。

**福井育英奨学金へのご寄附を  
いただきました**

- 工業会福岡支部土木部会一同 様
- 東京 西見 裕司 様 (S58 卒)
- 東京 庄司 順一郎 様 (S47 卒)
- 横浜 村上 清高 様 (S48 卒)

福井育英奨学金は、国家公務員を目指す学生を支援する目的の奨学金です。皆様のご賛同による寄附をお願いいたしております。

## 熊本大学工学蘇遙会 同窓会システム 運用開始

～運用の方法と名簿誌発行中止について～

平成 26 年度より試用を開始しておりました「熊本大学蘇遙会 同窓会システム」について、平成 27 年度より正式に運用を開始すること決定しました。個人 ID とパスワードを使用してホ

ームページよりログインすることにより、会員各自による情報の修正の簡易化、データの閲覧が可能になります。また、会費の払い込みの確認やメッセージの投稿などが可能となりました。

### 情報の修正・閲覧には ID とパスワードが必要

同窓会システムで情報の修正や閲覧を行うには、会員 ID とパスワードが必要です。**データカード枠外に記載**されている ID とパスワードをご確認ください。また、会員のページからログインパスワードを変更することができます。

同窓会システムは携帯電話・スマートフォンからの閲覧にも対応していますが、会員検索など一部の機能はモバイルからはご利用できません。

### 個人情報\*の「公開範囲」を必ず確認！

今後、同窓会システムは名簿と同等の扱いとなります。したがって、個人データの詳細内容は会費払込済みの蘇遙会会員限定の閲覧可能な情報となります。但し、会員本人の意思により公開範囲を設定することができます。データカードの返信や同窓会システムによる修正・確認がない場合は全ての情報の掲載に同意されたものとさせていただきます、平成 28 年度 4 月より、設定を「**公開範囲を未選択**」のままにされている場合は**公開を許可されたものとみなし、その情報を「全卒業生に公開」といたします**。今一度、同封のデータカードをご確認いただきたくお願いいたします。

※データの管理は大阪市に本社を置く有限会社プリンティングサービスに委託し、個人情報については契約に則りこれを保護しています。

### メッセージを発信しよう

ホームページには、会員の皆様からのメッセージが投稿できます。近況報告や同窓会呼びかけの場としてご利用ください。

また、同窓会の案内などを直接 E メールで呼びかけたい場合は、事務局にご依頼ください。

### 同窓会システムで手続すれば返送は不要

インターネットの会員ページから情報の修正をされた会員は**データカードの返送は不要**となります。変更がなかった場合も、内容を確認後、必ず「**更新する**」のボタンを押してください。

今後、個人データ確認を依頼するメールを年に 1 回送付します。メールアドレスをお持ちの方は必ず登録してください。

### インターネットをご利用いただけない方は

携帯電話やパソコンなどのインターネットを利用されない場合は、データの更新には引き続きデータカードをご利用ください。

## 蘇遙会ホームページ



## インターネットでの情報更新の流れ

## ホームページを開く

- ・「蘇遙会」熊本大学社会環境工学科
- ・<http://www.web-dousoukai.com/soyoukai/>

## 会員ログイン

- ・IDとパスワードを入力
- ・IDと初期パスワードは同封のデータカード上部に記載

## 会員情報の管理

- ・各項目と公開設定を選択し、確認後、「更新する」のボタンを押す

## 会員名簿の発行を中止します

蘇遙会では二年に一度会員名簿を発行し、会費をお支払いいただいた会員の方々にお贈りしてきました。しかしながら、近年は印刷費の値上りと相反し、名簿の需要の低下と会費納入者数の減少が進み、会計の赤字化が進んでおります。

近年はインターネットの普及により、名簿情報のデジタル化、検索の簡易化が求められる時代となっています。また、個人情報保護が必要とされる今日、簡単にコピーできる名簿の存在が不安材料の一つとなっていることは否定できません。そこで、蘇遙会でも同窓会システムを導入し、名簿情報をデータベース化することとなりました。それに伴い、紙媒体としての「蘇遙会会員名簿」を廃止し、**平成 28 年度より**「蘇遙会ホームページ」からの会費納入会員のためのサービスとして同窓生情報の提供を行うこととなりました。それに伴い、平成 28 年 4 月より下記の通りにシステムを変更します。

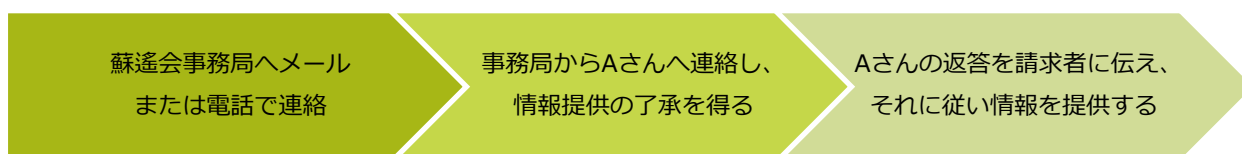
- ① 全会員は同窓会システムにIDとパスワードを使用してログイン後、データの一部を閲覧できる
- ② 公開可の詳細データは、会費納入会員のみが閲覧可能
- ③ 会費納入会員であっても多量のデータ閲覧はできない（データ流出防止のため）
- ④ 詳細データは画面上で閲覧できるが、これをダウンロードすることはできない

### 複数の連絡先、未公開の情報を知りたいときは

◆手続き例 1：同窓会開催のため名簿が必要な場合



◆手続き例 2：同級生 A さんの連絡先を知りたい場合



## 研究室だより

※指導教員と学生が研究室を紹介します。  
各研究室HPもご覧ください

### 複合材料研究室

大津 政康 教授

蘇遙会の活動の通り、卒業生も含めた研究室の学生達の結びつきは大変に重要です。私の楽しみでもあります。研究室内の学生との交流は貴重な機会です。そこで、まず、卒業生の多い東京で忘年会を毎年開催していました。これを知った福岡の卒業生たちが、福岡でも大津研同窓会をしようということになり、昨年11月の材料学会のシンポジウムの開催と併せて、



複合材料研究室（大津研究室）

福岡同窓会を開催しました。私と友田技官に加えて、私の卒業生には大学で教員をしている先生達も全国に10名いますが、その内の3名が彼等の学生を伴って参加してくれました。研究室の学生達と福岡で働いている先輩達もみんな一緒に本当に楽しい時が過ごせました。また、彼らの連携も強くなっただと思います。

### 空間情報デザイン研究室

小林 一郎 教授

現在、研究室では、都市内の橋梁掛け替えの関する施工検討、防潮堤の景観設計、ダムの周辺整備計画、阿蘇地域の防災への3D・CADの適用等のプロジェクトや、点群データの活用や河川・ダムの管理情報の一元化に関する基礎研究を行っています。実際に事業が行われている現場をフィールドに行っているため、国県の技術者、外部の研究機関や会社の方々との共同研究を行い、常に新しいことに挑戦しています。

研究室の恒例行事で、『新宿コンパ』というのがあります。今年も、全員秋には上京します。4月から、博士号を取得した藤田研究員が登壇、研究指導にあたるので、学生たちもずいぶんやりやすくなっています。



空間情報デザイン研究室  
(小林研究室)

### 環境建設材料工学研究室

重石 光弘 教授

建設材料、とりわけコンクリートの環境負荷低減に取り組んでいます。特に、東日本大地震・大津波により放射性物質によって汚染されたコンクリートの除染と再生利用、さらには原子力施設の廃止によって排出されるコンクリートの処理については喫緊の課題として研究を進めています。

重石研では、早い時期からTAや実験を通して研究（コンクリート）に関する実践的な内容を学ぶことができます。研究室にはインドネシア、アフガニスタン、ベナンからの留学生が在籍し、国際色豊かな構成となっています。飲み会やキャンプ等のイベントなども随時開催し、楽しい研究室生活を送っています。



環境建設材料工学研究室  
(重石研究室)

### 流域環境デザイン研究室

皆川 朋子 准教授

流域環境デザイン研究室では豊かな国土づくりを目指し、流域及び河川・湖沼を対象に、自然と共生した川づくりや自然再生に関する研究を行っています。自然再生を行うためには、河川の構造と生態系の様々な機能を解明し、現場

に生かしていくことが必要です。また、川づくりには、工学・生態学的知見のみではなく、地域の歴史・文化を抽出し、地域に根ざした個性ある川づくりを行ってこたが必要で。そこで、当研究室では、他大学や他分野の研究者、市民や行政とも連携を図りながら研究を実施しています。



流域環境デザイン研究室  
(皆川研究室)

地域水循環デザイン研究室

濱 武英 准教授

水環境工学や農業水文学を基礎学問として、持続可能な資源利用や健全な流域水・物質循環と農業のあり方について研究を行っています。実際の研究活動では、チームプレーを重視しています。個々のメンバーの特性を活かしながら



地域水循環デザイン研究室  
(濱研究室)

環境地盤工学研究室

椋木 俊文 准教授

フィールド調査、室内実験、モデル解析をバランスよく分担して、農業と流域管理のあるべき姿を模索します。  
白川中流域に加えて、阿蘇、天明（有明海沿岸）、郡築（八代海沿岸）の水田において研究をはじめました。

椋木研究室は、地盤汚染・浄化の問題を対象に実験・解析を行い、地盤の汚染・浄化メカニズムを解明する研究に力を入れており、地盤がどのような汚染され、どうすれば起きてしまった地盤汚染の拡大を緩和し、また有効に浄化することができるとかを考え、提案して

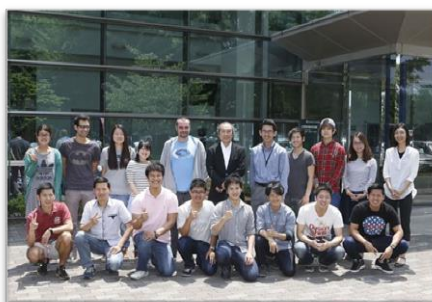


環境地盤工学研究室  
(椋木研究室)

います。  
また学部時代の苦手科目ベスト3に入るといっても過言ではない士の力学と流体の力学を融合させた研究テーマを通じて、「あーそうだったのか！」という再発見ができる研究室です。  
卒業していく頃、卒業生の皆さんは、自分たちがびっくりするほど自分たちの中に眠っていたポテンシャルを引き出すことができ、自らに満足しているようです。  
自分自身に対し、そして学生さん自身に対し「鉄は熱いうちに打て！そして、真金になれ！」との思いで、自立できる、そして、人に勝たなくても自分に負けない人材育成を目指して、研究室を運営しています。共々に成長していきましょう。

地盤工学研究室

(大谷 順 教授)



地盤工学研究室(大谷研究室)

私達は、主に社会基盤を支えている「地盤」について研究しています。研究対象としては、トンネルや基礎構造物、地盤改良、下水道管渠の破損問題などを扱っており、これらの対象において、地盤が安定性を失い崩壊する過程の解明や、より安全な地盤条件の検証などを行っています。

研究室の主なイベントとしては、新入生歓迎会や、研究室旅行、学科のスポーツ大会への参加などがあります。学会への参加や各種ゼミを開催するなど、研究においても積極的かつ真剣に取り組んでいます。椋木研究室とは非常に仲が良く、多くのイベントを合同で行っています。

### 河川研究室

(大本 照憲 教授)

河川研究室では、平成 24 年 7 月 12 日に発生した白川水害および菊池川支川の合志川水害の実態解明、最近は菊池川、球磨川、唐人川での河川環境調査や白川龍田 1 丁目および 4 丁目を対象にした模型実験、開水路を使った水理実験、河川災害に関するアンケート調査など、加藤清正が遺した河川構造物の機能評価等、多様な調査・研究を行っております。県や市、または民間の企業との共同研究もっており、実際の業務に携わりながら研究室のみんなで日々切磋琢磨しております。



河川研究室 (大本研究室)



地下空間工学研究室  
(尾原研究室)

### 地下空間工学研究室

(尾原 祐三 教授)

私たち地下空間工学研究室は、工学部研究棟 1 の 8 階にあります。尾原教授と技術指導員の吉永さんを中心に学生が 10 名。佐藤先生の研究室と部屋を共有しており、大人数で賑やかに、楽しく研究に取り組んでいます。

日ごろはゼミや研究に励んでいますが、月に一度は飲み会を開催し、ソフトボール大会などに出場し、夏にはキャンプなどを行い、親睦を深めています。研究内容は、地下空間工学・岩盤力学・探査工学に関する研究に取り組み、学会は資源・素材学会に所属しています。

### 地域公共政策研究室

(柿本 竜治 教授)

私たち柿本研究室は、主に統計学を使ってモデルを作り人々の行動に関する研究や都市計画の評価に関する研究を行っています。本年度の大まかな研究内容は上記に示す内容となっています。

柿本研は、研究室自体の人数は多くないのですが、柿本先生・吉田先生の 2 名の先生方にご指導いただけるので質の高い研究や問題点の解決に十分な環境が整っています。また、fortran や excel、GIS といった研究に必要なツールの技術を学ぶことができ、週に 1 回、卒論・修論に向けてのゼミがあるので、日々目標に向けて研究に取り組める環境があります。他にも、



地域公共政策研究室  
(柿本研究室)

社会人ドクターや減災センター職員、技術職員の方もゼミに参加しているので、様々な視点からの意見も充実しています。

### 水質環境学研究室

(川越 保徳 教授)



水質環境学研究室  
(川越研究室)

研究室にはベトナムや中国、アフガニスタンからの留学生が所属し、国際色豊かな環境になっています。普段から英語を用いて留学生と会話をすることが多いので英会話が身近なものとなり、海外の方とも臆することなくコミュニケーションを取れるようになります。留学生との交流を持つことで、英語に限らず研究以外でも多くの事を学び、経験することが出来る研究室ではないかと思えます。





交通まちづくり研究室  
(溝上研究室)

交通まちづくりの研究室  
(溝上 章志 教授)

この研究室は、みんな和気あいあいと良い雰囲気です。日々研究に取り組んでいます。もちろん研究だけではなく、蘇遙会主催のソフトボール大会に参加したり、研究室でクリスマス会を行ったりと充実した日々を過ごすことができます。また、卒業生との交流も盛んで毎年、年末にOB会が開催され、就職のことなどを相談することができ、ますます！たくさんの研究室があつて迷うと思いますが、溝上研究室を選んで絶対に後悔はしません！大学院に来る人・オンとオフの区別がはつきりとつけられる人、大歓迎です。もちろん、公務員志望の人やコンサル志望の人でも大歓迎です！



都市防災研究室  
(松田研究室)

都市防災研究室  
(松田 泰治 教授)

私たち「都市防災研究室(松田研)」は、松田泰治教授を中心に社会人ドクター1名、学生9名と研究室の母的存在である秘書の池田さんの計12名で日々活動を行っています。研究内容としては、橋梁や堤防、鉄塔などの構造物を数値モデルで表し、地震時の構造物の耐震性を評価するハード分野についての研究を行っています。基礎となる学問は、「構造の力学」「建設振動学」「地震防災工学」です。イベントとしては、山尾研・葛西研との合同キャンプや各種飲み会があります。また、松田教授宅でのクリスマスパーティーという伝統もあります。

構造力学研究室

(山尾 敏孝 教授)

本研究室では、葛西研究室の学生とともに日々切磋琢磨しながら各自の研究に打ち込んでいます。今年も大阪で開催される「Japan Steel Bridge Competition」に、葛西研およびやる気のある2、3年生と一緒に出場します。学生生活においても、葛西研と合同でソフトボール大会や、ボランティアなどのイベントに積極的に参加し、学生生活をエンジョイし、楽しい日々を送っております。今年も、卒業生の方々と交流を深めたいと思います。熊本にお越しの際はぜひ研究室にお立ち寄りください。また、HPの更新も積極的に進めてまいりますのでぜひご覧ください。

構造力学研究室

(葛西 昭 准教授)

主な研究テーマとしては、実験的および数値解析的に橋梁などの鋼構造物の弾塑性挙動を解明し、耐震性能評価を施すテーマが基本です。今年で6年目の研究室ですが、常に新しいことに、学生・教員共に一丸となつて取り組んでいます。



構造力学研究室 (山尾・葛西研究室)

また、社環ソフトボール大会へ参加したり、山尾研・松田研との合同キャンプなど各種イベントにも積極的に参加しています。その中でも最大のイベントである鋼橋模型のコンペティションである「Japan Steel Bridge Competition (いわゆるブリコン)」には6年前から毎年参加しており、去年の夏に熊本大学の百周年記念館で開催された大会にも参加し、結果として総合3位の成績を修めることができました。研究はもちろんイベント事なども多く、達成感を感じることができる研究室です。ホームページを積極的に更新していますので、興味のある方はぜひご覧ください。

交通政策分析研究室

(円山 琢也 准教授)

昨年度過去最多だった研究室のメンバーがさらに増え、今年度は11名で研究室活動を行っています。留学生もアフガニスタンより3名を招き、さまざまな場面で日々交流を深めています。研究においては、先輩や後輩に関係なく互いが教えあっており、コンペ等イベントの際は研究室一体となって仲良く準備を進めています。



交通政策分析研究室

(円山研究室)

ゼミの他、飲み会や旅行等のイベントも毎回楽しくにぎやかにを行っています。時にはその日になつてどこかへドライブに行ったりすることもあります！他の計画系研究室や、部屋が同じ竹内研究室との飲み会、他大学との合同合宿な

ど、研究室を超えた交流もあるの  
で、刺激のある研究室生活を送  
れています！

地域防災研究室

(竹内 裕希子 准教授)



地域防災研究室 (竹内研究室)

私たち地域防災研究室は、2014年度から設立された新たな研究室です。防災教育や自主防災組織での地域防災などを研究テーマとし、他の研究室にはない色を持っています。具体的な活動内容としては、阿蘇市の小学校での防災教育や自主防災組織が活動している地域での防災マップ作りなどです。

そして今年度は新たなチャレンジも始めています。ひとつは、熊助組という工学部のサークルの中で、災害ボランティア活動を行っています。

ます。防災という視点から、地域に貢献したいという思いで、取り組んでいます。もうひとつは、ブリッジコンペティションという橋梁の模型を作る大会です。これは、構造力学研究室の方々が主となって行い、今年度は私たちも参加させていただくことになりました。構造と防災、お互い真逆のような存在ですが、そこに取り組むことで新たな知識を得ることができると考えています。

地域風土計画研究室

(田中 尚人 准教授)

私たちは「まちづくり・地域づくり」、「重要文化的景観」、「土木計画学」をテーマとした研究を行っています。地域の歴史や文化を学ぶと同時に現地調査を頻繁に行い知識を深めています。地域の人々へのヒアリング、ワークショップ活動、各地の委員会などにも参加し、より実践的なまちづくり活動を学ぶことができます。

研究室活動以外にも、研究室旅行や研究室キャンプ、飲み会などのイベントを積極的に行っており、研究室メンバーだけではなく他大学の研究室や他大学の教授、さらには研究活動で関わっている地域



地域風土計画研究室

(田中研究室)

の方々と飲み会をすることもあります。

こういった人と人とのつながりを大切にし、たくさんの人との出会いの中で私たち田中研のメンバーは日々成長することができています。昨年、今年と留学生も来てくれ、よりグローバルな研究室になりました！

深部地下環境工学研究室

(佐藤 晃 准教授)

佐藤研究室は今年学生9名と多く、佐藤先生の指導の下みんな楽しく研究に取り組んでいます。研究室の活動としては週1回のゼミがあります。

また、尾原研と一緒に活動することも多く、飲み会を合同で行ったり、ソフトボール大会に参加し



深部地下環境工学研究室

(佐藤研究室)

たりと人数も多く大変楽しい研究生活を送っています。

研究室は研究棟1の8階にあります。深部地下環境という未知の領域をテーマとする研究に興味がある方は是非、おいでください。

景観デザイン研究室

(星野 裕司 准教授)

当研究室は、実際のプロジェクトに参加し、模型等を用いたデザインの検討や地域住民とのワークショップの企画・運営を行う「実践」と、実際の経験に基づきながらも、より自由に、より純粋に、発想の羽を伸ばしていく「研究」の2本を柱としています。実践面では、2012年、研究室で取り組んできた曾木の滝・分水路がグッドデザイン賞を受賞、2013

年は熊本駅周辺整備事業が国土交通大臣賞をするなど、多くの実績を挙げています。また、他大学の学生や社会人の方との交流も多く、外とのツナガリを作るのいうつつけの研究室です。

研究室の雰囲気としては、みんなで旅行に出かけたり、プライベートでもとても仲が良い研究室です。少しでも興味があればいつでも遊びに来てみてください！



景観デザイン研究室

(星野研究室)

災害リスクマネジメント研究室

(藤見 俊夫 准教授)

この研究室では、災害リスクを適切に管理するための研究を行います。統計学や経済学を使って、巨大地震や津波、台風などの自然災害が地域の人々や資産にどの



災害リスクマネジメント研究室

(藤見研究室)

いど被害を及ぼすかを定量的に評価し、被害を軽減するための政策を検討します。またそれ以外にも、熊本の地下水涵養に関わる研究や災害時の節電に関わる研究など、幅広いテーマの研究を行っています。

昨年の研究室メンバーは3名でしたが、今年は7名に人数が増えて、研究室ゼミや研究会飲み会がにぎやかになりました。みんな和気あいあいと楽しく充実した研究生活を過ごしています。

応用海岸研究室

(中條 壮太 助教)

沿岸域の波・流れ・底質輸送と地形変化および高潮、津波、河川氾濫などの防災・減災対策など水

に関わる研究を行っております。現実に起こっている現象に関心があり、現地調査やデータ解析に積極的に取り組む意識を持った学生を希望します。最初は分からないことばかりだとは思いますが、多くのことを経験し徐々に様々なスキルが身につくと思います。また、応用海岸研究室では、月に一度、現地調査として海岸に行っているため、海が大好きな学生は大歓迎です。

研究室での活動は勉強や研究ばかりではありません。本研究室では、夏はキャンプ、冬にはソフトボール大会、普段も飲み会や河川敷でのスポーツ等、みんな楽しくアクティブに活動しております。



応用海岸研究室

(中條研究室)

◆平成 27 年 3 月学部卒業生進路

国土交通省、厚生労働省、防衛省、熊本県、大分県、東京都、広島県、福岡県警、熊本市、荒尾市、大田区、鹿島建設(株)、前田建設工業(株)、若築建設(株)、大成建設(株)、(株)建設技術研究所、九州旅客鉄道(株)、(株)イノス、熊本大学院自然科学研究科前期課程、名古屋大学大学院工学研究科、野村證券(株)、(株)インテリジェンスホールディングス

◆平成 27 年 3 月大学院卒業生進路

熊本県、佐賀県、宮崎県、熊本市、福岡市、(株)大林組、安藤・ハザマ(株)、鹿島建設(株)、清水建設(株)、大成建設(株)、(株)奥村組、(株)NIPPO、いであ(株)、応用地質(株)、(株)福山コンサルタント、川田工業(株)、九州建設コンサルタント(株)、国際航業(株)、中央コンサルタンツ(株)、八千代エンジニアリング(株)、(株)建設技術研究所、一般財団法人計量計画研究所、(株)横河ブリッジホールディングス、西日本高速道路(株)、阪神高速技研(株)、能美防災(株)、独立行政法人都市再生機構、熊本大学院自然科学研究科後期課程、東京大学大学院工学系研究科、海外の大学

広告募集

蘇遙会情報誌は来年度より年 2 回の発行となり、登録会員全員に配布いたします。サイズ、料金は未定ですが、企業、個人、グループでの広告を受け付けます。詳しくは事務局へお問い合わせください。



蘇遙会学生部 Facebook

<https://www.facebook.com/gakuseibu.soyoukai>

◆社会環境工学科の現況

【転出 2015 年 3 月】

麻植 久史 助教 (京都大学)

【学生数】

学部 1 年:72 名  
 2 年:76 名  
 3 年:76 名(うち編入 4 名)  
 卒研未着手:14 名  
 4 年:78 名  
 修士 1 年:47 名  
 2 年:40 名  
 博士 24 名

※学生数は H27 年 10 月末現在の留学生、10 月入学予定者、社会人ドクターを含む。

事務局より

会費納入のお願い

蘇遙会は皆様から納入いただいた会費で情報誌や名簿の発行、ホームページの運営などを行っておりますが、近年、会費の納入数が減少しています。蘇遙会は、卒業生の皆様が学科の様子や同窓生の動向を知ることが出来る場です。情報の発信を続けるために、また、在学中の学生の活動を支援するために、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

記事でもお知らせしました通り、平成 28 年度からは会費が変更になり、名簿の発行もいたしません。

なお、本年度中に 26・27 年度会費(5000 円)を納入いただいた方は平成 26 年発行の蘇遙会会員名簿誌を贈呈いたします。

編集後記

8 月 28 日の台風 15 号は、黒髪キャンパスにも大きな被害をもたらしました。南キャンパスでは工学部研究資料館横通路沿いの木や、工学部 1 号館裏の中庭の木が折れました。9 月には阿蘇山の噴火が発生し、2 ヶ月近くレベル 3 の入山規制が敷かれました。様々な技術が進歩しても、自然災害に抗うことは難しいと再認識しました。

さて、例年は冊子で配布しておりました情報誌を一新し、多くの会員の皆さんに配布できるようにしました。ホームページと重複する情報もありますが、インターネット環境をお持ちでない会員の方や、ご家族の方にもご覧いただけるようにしました。今後とも内容の充実を努めてまいりたいと思っております。皆様のご意見、ご要望をお寄せ願います。

〒866-0855  
 熊本市中央区黒髪 2-39-1  
 熊本大学工学部 社会環境工学科 蘇遙会  
 電話 096-342-3544  
 FAX 096-342-3507